

井戸端だより

第 68 号

発行日：2009.12.21

発行：くらしの学習会



2009 年は、国民が政治に関心を持たざるを得ない年になりました。長く続いた自民党政権が敗れ、国民の期待を担って民主党が第1党となり、社民党、国民新党との連立政権が誕生しました。今まで明らかにされてこなかった部分が国民の知るところになったという感じがしますが、こここのところの迷走ぶりに不安もよぎります。来年は、将来へのはっきりした方向性と希望が持てるような政治主導をと期待しつつ、68 号の会報をお届けします。読んでいただき、何かを感じていただければ幸いです。



目 次



- | | |
|--------------|--------------|
| ・例会報告 |P.2 |
| ・生と死 |P.3 |
| ・老後支度？ |P.4~6 |
| ・二度目のお産 |P.7 |
| ・絵本で出会った人々 |P.8~9 |
| ・A先生と同級生 |P.10 |
| ・京都御所特別公開 |P.11 |
| ・雑感 |P.12~14 |
| ・福見山(俵飛山福見寺) |P.15~16 |
| ・お知らせ・編集後記 |P.16 |

10月例会報告

10月6日(火)林宅で午前10時から10月例会を行いました。参加者6名。日ごろ集まらない顔もあり、大いに盛り上がりました。9月の中島行きの写真を上手に組み合わせて思い出シートをつくってくれた会員もいて、思い出話に花が咲きました。また、ある会員が徳島であった同窓会に参加して、皆に藍染のハンカチと鳴門金時のお菓子をお土産にくれたのには歓声が上がりました。11月例会は、久しぶりに夜開き、いつも出られないメンバーが出られるように配慮することになりました。またいつも会報を読んでくださる東温市の行政に詳しい方を交えて市についてのあれこれを話し合うことにしました。

11月例会報告

11月6日(金)8名が林宅に集まり、午後7時半から10時半ごろまで東温市について多岐にわたる話題で話し合いました。他団体の代表の方、市行政に詳しい方の参加もあり盛り上がりました。上った話題は 1.政権が変わったことで市の対応に何か変わったことがあるのか 2.合併後市行政にどのような変化があったのか 3.市民から上がってきた意見は活かされているのか 4.環境対策はどうなっているのか ゴミに有料化が取り上げられていたがその後どうなっているのか 5.ペット霊園のニュースがあったがどうなっているのか 6.介護保険が全国的に見ても非常に高額だというニュースがあったがどうしてこのように高くなるのか 7.愛大と連携したと言うが、どのようなことが具体的に進んでいるのか などでした。回答がこの場では出ない問題ではないので、今後分野ごとに市の出前講座を頼むとかして会として詳しい情報を入れていくことになりました。

12月例会報告

12月2日(水)11時半から、東温市内の個人のお宅で料理を出してくれる「彩」で、忘年会を兼ねた例会を行いました。このところ、兄弟の最期をみとり、その後のあれこれですら忙しく例会に参加できていなかった会員、夫の介護で日ごろ忙しい会員も集まり、8名の参加でした。それぞれの近況報告、人生論などが披露され、いつもとは一味違った例会となりました。素晴らしい見晴らしの和室でいただいた、ひとつひとつ心のこもったおもてなし料理の数々に舌鼓を打ちました。そして、ゆったりした時間の流れの中で、今年1年を振り返ることができました。来年の総会は、東温市の成人式に参加するお嬢さんについて東京から来るこの会でもおなじみの、ヒラさんの東温市滞在中に設定することになりました。日程は彼女との今後の折衝で決めるということになりました。(T・H)

1月10日(日)午前10時から林宅にて総会、その後新年会に決定

生 と 死

森繁久彌さん96歳で老衰死のニュースがテレビラジオで流れた。人間的に素晴らしい生き方をされた事が、接した方々のお話で良く分かり、これこそ精一杯生き抜いた人生だと思った。一方、同時に放映された殺人事件、市橋達也のリンゼイさん殺害の逃亡の内幕。島根女子大生のバラバラ切断のむごさ、34歳女性の結婚詐欺の手口、35歳元ホステスが企んだ男性の不審死。日本の国、日本人はどうなっているのだろうと人間の生きる道はずれた人に恐怖を感じる。

男も女も年齢も関係なく、つつ走る殺人は自分の生活にお金だけを求め、命を忘れた行動である。

私の周りにも死の思い出がある。弟が小学校4年生で病死した。孫が小4なので何かにつけ思い出事が多い。戦後の物不足の中、姉三人の下に生まれ、親の言うままに赤足袋を学校へ履いて行っている事、病床にあつて学校への思いを話し続けた事、最後は家族が声を掛け大声で彰、彰、と呼んだが応える事はなかった。

母は昨年、96歳10か月で帰らぬ人になったが、百年近く家を守り、子供や孫、曾孫に優しく接していたので、皆が、氷より冷たい手や足をさすり、冷たい顔に頬ずりしてみたが、蘇る事はなかった。

先日文友さんの息子さんから電話があり母が亡くなり、明日葬儀ですとの事。えええ十日位前に文友さん8名が道後のメルパルクに集い楽しくおしゃべりし、自分で作っておられる栗を皆にくださったとこなのに、何故、どうしてという思いで、皆に電話し、葬儀に参加した。聞こえて来た噂では、農作業を終え、夜お風呂に入っていて「いねむり」したのが原因との事。一人暮らしだったので、ヘルパーさんが訪ねた日迄、二日間も水の中だったという。哀れで哀れで涙が止まらなかった。

子供さん方が立派になられ、都会で家族を持ち立派な生活をされている事が、参列者の様子で分かり、余計に腹立たしく思った。今の日本の縮図かもしれないが、母を思う心があれば、毎晩電話をして安否を気遣う事をしなかったのだろうか。今の自分達の幸せな生活の礎はどこなのか考えて欲しかった。

生まれて来た後にあるものは死ということは分かっている、自分の思いを尽さずに死んでいくことは、つらい事である。どうか日本の国いや周りの人々が安心して精一杯生き抜く事が出来る世になって欲しいと思うこの頃である。

(Sa・K)





老後支度？

約二年余り、亡くなった夫の両親の住居の片付けをしていたのですが、その仕事にも目途がつきはじめてみると、最低限の分量ではありますが両親の使っていた物を我が家へ持ち帰るといふ大仕事が発生。今の住まいに引っ越して来年で25年、子供も巣立ち夫婦二人の生活になり、体力のある間に物を減らし、両親の使っていた物を組み入れスッキリとした生活空間を作る事にし秋頃から夫と共に我が家の片付けを始めました。

まず、収納場所の確保として押し入れ・袋戸棚の物の整理＜処分・譲る・残す＞選別。引っ越し25年そのままほどこいていない荷物・一度も使う事との無かった物の大半は処分。頂き物の箱物は使い勝手の良さそうな物だけを残しバザー用に友人に譲った。教科書類・古くなった活動資料や本は古紙回収業者が定期的に来てくれるのでリサイクル。（本や資料の処分にあたり、名前の部分は破り、個人情報が含まれている可能性があるのではさんである物の確認をしながらの処分にはかなり時間を要した）しばらくトイレトーパーを購入せずにすみそうです。こうしてかなりの収納スペースの確保が出来ました。

次は、ほぼ15年ぶりに家中の家具を移動。移動にあたりタンスの中身を出しながら長く着ることのなかった洋服類を思い切って処分。凄いほこりは覚悟していたが外壁に面した壁に黒カビが…、夫の仕事が出来てしまった。畳も隅の部分がへこみ痛みかけていたので数日乾燥させた後（よい天気であたたかな日が続く助かった）畳の上に置く家具の下全てに厚手の合板を敷き込み設置をした。今まで「もし睡眠中に大地震が起こったら二人とも危険かもね」と冗談っぽく話をしていたので、家具の上には一切物を置かないと決め、万全とは行かないが一安心。家具が動いて壁が多く見えると、薄茶色に汚れた襖が気になって仕方がない。ホームセンターで襖紙を買い、ほとんど夫の仕事になってしまったが、12枚の襖と3枚の袋戸棚の扉が全て綺麗になると部屋全体が明るくなり広く感じられるようになった。なかなか片付けの出来ない子供の部屋も彼の了解を得て、親が判断できる物については片付け、本人でないと分からない物はプライバシーに配慮しながら箱詰めし仮置きをして

あるのだが、片付くのはいつの事になるのやら。私達の方も完全に所定の位置が定まっていないので、少しづつ収まりのいい状態するのは私の仕事になりそうです。洋服ダンス①机①ミシンラック①オーディオラック①食器棚①を粗大ゴミとして処分した結果、畳の部分が増え、部屋が広く感じられスッキリ感を味わっています。

以前、老後に向け体力のあるうちに家の片付けをし身の回りのスリム化をすすめる家事研究家の話を聞いて、我が家もやらないといけないと思ってはいたのですが、老後支度の第一段階として頑張ってみました。ある人のお母さんが90歳越えのご高齢で亡くなった時、ご家族と一緒に生活をされていたとはいえ、自室に残された荷物は押し入れにほんの少しだけだったとの話を聞き、そこまで到達できる自信はありませんが、いずれ私たちに何かあった場合、片付けべたの子供に大変なお荷物を残してしまうもの？と今は思っていますので、今後もすこしづつ物減らしを続けて行く必要があります。『最近、一人住まいの方が亡くなったり、老夫婦共介護施設に入り空家になってしまったその住まいの片付けを引っ越し業者に依頼をする家族が増えている』とのニュースを目にし、親元を離れ就職をし転勤などで遠くに住む家族にとっては仕方のない事なのかも知れません。親の方もあまり子供達に迷惑を掛けたくないと思っている人も増えているようですが、物分かりがよすぎるのでしょうか？

『サザエさん』では毎年家族皆での大掃除が年末の風物詩として放映されていますが、これを実行すればゴミをたくさん出さずにすみ、壁に黒カビを生える事も無いのでしょうか、なかなかその時間が作れないのが現状です。『もったいない』という気持ちはもちろんありましたが、あまり古い物を人様に貰ってもらうのも気が引け、リサイクルショップを利用しなかったのでかなりの物をゴミとして出してしまいました。

12月12日（土）『ガイアの夜明け 進化するリサイクル』を見ました。

①古着ショップでの物の流れを紹介されていて、国内で売れなかった古着はアジアへ輸出、リメイクされ新たな商品に生まれ変わって流通し、決して無駄（ゴミ）にはしない。

②あるベンチャー企業が『バイオエタノール』の原料として綿100%の古着を

メーカーと提携し回収、今治にある実験プラントで抽出をする技術の紹介があり、今治といえばタオル、綿100%の原料がふんだんにある土地。生産に伴い排出される廃棄物が利用でき、地元の高校の協力を得て分解に必要な酵素を工場付近の土壌から取り出す実験もおこない、それが成功すれば高価な酵素を購入しなくても安価なバイオエタノールの生産が可能になる。

と夢のあるリサイクル番組でした。すべての古着を扱っている業者がこのような取組をしているとは思いますが、ゴミ袋へ入れてしまうよりは有効に利用をされているのでしょうか。東温市の燃やすごみの指定袋に入れた衣類は燃やされてしまっているのでしょうか？（なるべく衣類のみを入れて出すようにはしているのですが）バイオエタノールを生産するのに綿100%の繊維が利用できるのであれば、食料を生産する農地でバイオエタノール用植物の生産量を減らす事になるのではないかと思うのですが、まだ実験段階で実用化されるかどうかは分かりません。メーカーと提携し集めた古着からバイオエタノールが抽出されいましたが、高価である事は間違いないでしょう。この実験が実用化される日が来ることを願っています。 A. M

2009年12月19日(土)
愛媛新聞
えひめ
くらし安全ナビ
県消費生活センター

今年も残すところわずかになり、年末の大掃除をする家庭も多いと思います。掃除によって生じた不用品の処分について、回収業者に依頼する場合には注意が必要で、
問題事例としては、①無料と思って、町内をまわっていた業者のトラックを呼び止めたが、回収後に有料と言われた業者の車に不用品を積み込んだ後に「量が多い」との理由で見積額が2倍以上の料金を請求された②業者が回収した不用品が後日、道路脇に不法投棄されていたといったも

不用品回収の依頼 料金増額の問題事例も

のがあります。

県消費生活センターにも、毎年2件程度の相談があります。不用品処分の際に、車でまわっている業者を呼び止めて回収を依頼した場合、訪問販売にはあたらす、クーリングオフの対象とならないので注意が必要です。

粗大ごみや不用品の処分は、市町のルールに従って行うことが前提です。さらに、一般廃棄物の収集・運搬は市町の認可を受けた業者しかできません。

廃品回収業者が無料回収をうたったとしても、回収時に料金を請求されるケースがあることから、安易に回収業者に依頼することなく、慎重に検討することが必要です。

何か不安なことや疑問点がありましたら、契約をする前に県消費生活センターまでご相談ください。

△毎月第3土曜日に掲載▽

二度目のお産

今年の9月に二度目のお産を迎えました。一人目と同じ、助産院の布団の上でのお産でした。

違っていたのは上の息子が一緒にいたこと。陣痛開始から2時間40分という短いお産だったので、5歳の息子も飽きずに、ずっと一緒にいられたのです。

最初のうちは、「イタイ～」とうなる私を見て、両手で耳をふさぎ、しくしく泣いていました。けれども、お産が進んで赤ちゃんの頭が見え始めた頃には好奇心が勝り、「頭が見えよる～！」とうれしそうな声が私にも聞こえました。

そして、赤ちゃんが生まれ、「ちんちん、でかつ！」と最初に性別を確認したのは上の息子でした。産まれた赤ちゃんの方も、目を開けて最初に見たのは兄の顔だったと、やはり一緒にいた夫が話していました。

お産を家族の営みと感じ、当たり前のこととして息子を連れていきました。けれども、いま思えば、産婦人科のお産では当たり前ではありません。私の胸にいる産まれたばかりの赤ちゃんを、キラキラと輝く瞳でのぞきこんでいた息子の顔を思い出すと、親になる準備を始めるには絶好の機会なのにと、家族と一緒にいられないお産がもったいなく感じられてなりません。

さて、前回のお産と違ったことがもう一つありました。助産師の方々が、赤ちゃんにお乳をあげようとしないのです。横になった私の胸の上に赤ちゃんを乗せたきり、自分で飲むから大丈夫というのです。すると、1時間近くたった頃、握ったままの手で私の胸を押し、据わらないぐらぐらの首をもたげて、ふらふらと、でも、きちんと乳首にたどり着いて、自分からお乳を飲んだではありませんか。

自然は、何もできないように見えるヒトの赤ちゃんにも生きるための力を備えていたのです。親が子を育てるのではなく、子どもは自分で育つのです。親は寄りそうのみと一人目のときに何となく感じていたことが、このときによく腑に落ちたような気がしました。

なにはともあれ、短時間でトラブルなく産まれた今回のお産は、大いに安産だったそうです。しかしながら、赤ちゃんと対話をしながらお産を味わいたいという私の望みは叶わず、あまりのスピードと早さゆえの痛さに、まるで津波にのまれたかのような2時間40分でした。

(T・S)

絵本で出会った人々

人との出会いは、振り返ってみると、自分にとっては、必然だったと思う場面があります。絵本の読み聞かせの仲間になることも、まさに、その場面でした。

20年近く関係した仕事から離れて、さて、何をと考えたとき、決められた時間だけの関わりを求めて、少しの時間、ボランティアをしようと決めました。近くに大病院もありますから。

玄関口で、車椅子や診察券の利用方法などのお世話をしたり、患者さんのために、図書館の配本のお手伝いをしたりする時間が、自分の生活の中に納まった頃、院内の小児科で絵本を読んでいる方から、絵本を一緒に読みませんかと、誘っていただきました。思いもかけない事でしたが、違和感がなく、断る理由もなく、活動に参加したいなあと思いました。車椅子から絵本に、私の居場所を変えました。上手くできるかどうかは未定でした。自分がその場所において、楽しいほうに移動したのですから、とても自分勝手なボランティアです。

今考えても、絵本の活動に関係するのは、自分のためであり、対象になる子供達の事は、考えていませんでした。このもてあまし気味の時間を、どう埋めればいいのかということが、その時期の私の最優先課題でした。絵を描いたり、陶芸をしたりと、自分なりに色々なことに、仕事を辞める少し前から挑戦していましたが、趣味に没頭することより、今にして思えば、人とのふれあいの時間を、私は、求めていたのかもしれませんが。趣味の時間も、人とは接していますが、どうも、そういう関係ではなく、異なる人間関係を望んでいたようです。

読み聞かせは、当初は、30分間の時間の内、一冊だけの時間の担当。時間にして、3分か5分。一冊の絵本を繰り返し繰り返し練習。上手くできるかどうか不安を伴いながらの読み方ですから・・・上手いく・・・訳がありません。それでも、それなりに充実感が感じられます。数冊の本で、子供達に、その時期のメッセージをうまく届けられるかどうかは、終わるまでわかりません。ですが、終了後の子供達の笑顔は次回への糧になります。

私が担当する活動場所には、知能が低かったり、体が弱かったりする子供達がいいます。絵本によっては、その場の子供達全員には理解ができません。彼らの顔は笑っています。絵本を聞いているときの表情がとても豊かなのです。

数ヶ月前、ゆめちゃんに出会いました。薬の副作用でムーンフェイスになっていますが、その日は、割と体調がよく、30分間、お話会に参加できました。終了後、ゆめちゃんがいいました。絵本で出てきたお月様をお願いするなら、お家に帰りたいよっていうのと。その日、お月様が出たらいいねといって別れました。小学校一年生のゆめちゃんは、保育所で読んだ（どうぞのいす）という絵本

が大好きだそうです。今度は、それを持って行こうと、心に決めました。そして、次回に(どうぞのいす)を持参しましたが、彼女はお話会に参加できませんでした。お話会の場所には出てきましたが、これから治療に行くそうです。ムーンフェイスの顔がもっと大きくなって、ゆめちゃんかどうか迷いました。が、お母さんでわかりました。お母さんも苦笑いをしながら、目でご挨拶です。私もゆめちゃんに手を振り、又ねといいました。いつかゆめちゃんに(どうぞのいす)を読みたいと思っています。

車椅子に乗った男の子がサンドイッチの本を持ってきました。これを読んでほしいというのです。今日はもう時間がないから、今度ね、と約束しました。ですが、わたしは、その事を、すっかり忘れていました。次の月、体調を崩したので、そこへの参加ができませんでした。二ヵ月後、すっかりサンドイッチのことを忘れている私の元へ、彼が来ていうのです。あの本、もう、期間が過ぎたけん、返したと。あーと、思わず、声が出そうになりました。ごめんね。と、何度も謝りました。図書館で、必ず、サンドイッチの本を借りてくるからと約束しました。次回、サンドイッチの本を読みました。彼が学校で借りた本ではありませんでしたが、彼は、自分の本を読んでもらっているんだという顔でいました。上手く読めなくてごめんね、と、心の中で言いながら、声だけは大きく、彼に、おいしいサンドイッチをプレゼントしました。

私は、幼児教育の事はわかりません。絵本の読み聞かせの途中には、絵本ばかりではなく、人形やペープサートや手遊び歌が入ります。ですが、得意ではありません。年の若い仲間の手遊び歌に感動しながら、熟練の紙芝居に聞き入りながら、今しばらくは楽しい時間を共有させてもらいたいと思っています。

ですが、ひそかに最近、思っています。少し、上手くなったかも……。

(M・T)



A 先生と同級生

約半年かかわった同級会の事務局の役目から 11 月中旬やっとなんて解放された。200 名に案内状を出し 56 名が集まった。中には癌治療中の人、帰ればすぐ入院する人、脳梗塞を患い車椅子で参加した人もいた。

1 日目は、今治市の日本食研見学と思ってもかけない人のひょっとこ踊りなど「何年分も笑った」というその笑い声の響き渡った宴会、また、趣味を生かした色紙や短冊やの K さん（彫刻家・書家）が自分の作品をまとめた本など数々の手づくりの作品を出し合ったお楽しみ抽選会などで賑わった。

2 日目は、しまなみ海道めぐりをしながら新幹線に乗る人達を岡山駅まで見送り無事 2 日間の日程を終えることが出来た。

翌朝アゴがはずれて病院へ行った人もいたとか。「故郷がますます好きになった」「先生の元気さを見習いたい」「また一つ素晴らしい思い出が出来た」「同級生って本当にいいね、最高～」「思っきり胸の内が喋れた」「皆で作った宝物だと思う」・・・など終了後の声に疲れも吹っ飛んだ。

A 先生は 5 年振りに参加して下さった。2 年前に肺がんの手術をされ、その後リハビリのために始めたというカラオケも披露して下さいました。

この先生には特別の思い出がある。それは小学校 5 年生の時。当時流行っていたマージャン、会社勤めの兄が同僚と卓を囲むことに。人数が足りなく私に加わることになった。たぶん覚えたばかりの頃で夢中で夜遅くまで楽しんだ。翌朝起きられなくて学校を休む？破目に。ところが A 先生が自転車で迎えに来てくれたのである。この話をすると A 先生は「覚えとるぞ」と。そして「今まで元気で頑張って一日も休まず学校へ来よったのにそのくらいで休むのはもったいなかるうが」と。58 年前の話である。お陰で小・中学校を通して 9 年間皆勤賞を戴くことができた。

また、A 先生の宿直の夜には数人が誘い合わせて学校へ行き、懐中電灯を持って校舎を巡回する先生について回り「おばけごっこ」や理科教室にある人体の骨格標本の白い布を触ってはキャーキャーと大騒ぎをしていたことを思い出す。先生も親も寛容な時代だった。

同級会の最後は A 先生の「万歳三唱」で皆背筋が伸びる。翌朝、お礼の電話をすると、「主人は、テニスに出かけていますよ」と。

58 年前に私に気合いを入れて下さった先生は 80 歳になられた。

好きだから続けられる 好きなことこそ人生の宝物 (意) の色紙と

鯉が水しぶきをあげ溪流を今まさに登ろうとしている姿を描いた (意) の短冊
が私に大切なことを語りかけてくれているように思う。 (S. K)

京都御所特別公開

11月1日から10日まで、今年も秋の京都御所特別公開が行われました。毎年、この時期に京都へ行く機会を持たずにいたのに、今年は他の用事もあって夫婦で行く機会に恵まれました。

通常、御所拝観は4日前までの申し込みが必要で、京都観光のついでに思い立っても入ることができないのですが、特別公開は春と秋に2回催され、この期間は御所に行けば誰でも入れます。築地塀で囲まれた京都御所の面積は、約11万㎡です。

今年は、天皇即位20年を記念して例年の公開範囲に加えて北側の殿舎・門も公開されたので、京都御所のほぼ全域を見ることが出来ました。それに加えて、7日は午前中に雅楽の舞と演奏が御所の外舞台で3回行われました。間近で、優雅で穏やかな舞と演奏を楽しみました。演奏の余韻を噛みしめながら、人の列に並び紫宸殿に入りました。それまでに見た御車寄や諸大夫の間と違い、なんと広い敷地、大きな…建物…でした。それもそのはず、紫宸殿は即位礼などの重要な儀式を行う最も格式の高い正殿なのです。

紫宸殿の前面には白砂の南庭が広がり、向かって右にご存じの「左近の桜」、左に「右近の橋」が植えられています。しばし立ち止まり、大正・昭和天皇の即位礼も行われたという、入母屋檜皮葺の高床式宮殿建築を鑑賞しました。

そして、清涼殿の平安時代の寝殿造りから、御学問所、御常御殿の室町時代の書院造りへと移り変わる建物の様式の変遷を、その職人技術のすばらしさに感嘆しながら見て歩きました。そして【枕の草子】や【源氏物語】が生まれた王朝文化に思いを馳せ、公達や女官が歩いたであろう廊下を目で追い物語を思い起こし、楽しみました。

庭園の好きな夫は、御学問所から御常御殿に続く造園のすばらしさに足が止まってしまいました。この御池庭の説明には～回遊式庭園。前面は州浜でその中に船着への飛び石を置いている。右に橋が架かり対岸には樹木を配し、様々な景色を楽しむことができる。～とあり、御内庭には奥に茶室が造ってありました。

広大な敷地、重厚で職人の知恵と技が凝縮された建築物の数々、手入れの行き届いた趣豊かな庭園、又、たくさんのりっぱな植木など、御所を作り上げるすべての要素は“天皇”という時の権力者がその権力を行使して出来上がっているのです。

京都御所…文化遺産という国の財産は権力で造られ、権力で保存されているのです。権力の功罪と功績を考えさせられました。

6日の日曜美術館で東京の“根津美術館”創始者の根津嘉一郎の事を詳しく紹介していました。鉄道王と呼ばれた彼は、明治時代に数多く海外に流出しはじめた日本の美術品を国の財産を守るという志から私財を投じて買い集め、死後すべての美術品を財団に寄付し、美術館建設を果たしたのです。

彼の「社会で得た富は社会へ返す。」という言葉はなんと清々しいのでしょうか。富にしがみつ়く政治家や財界人しか目につかなくなった昨今、日本文化の将来が憂えられます。

(R・D)

正岡子規が“茸狩りや浅き山々女連れ”と詠んだ、我が家の北の山並みは師走に入っても頂から麓まで装いを凝らした紅葉を纏い、秋の名残を惜しんでいるようです。子規の句碑は平井駅のホームの傍にあります。この句が発表された明治33年当時、小野の山は松茸山として知られ収穫時期には平井駅から運搬の為の臨時列車が出たほどだと言います。村上壺天子の書によるこの句碑は両面句碑となっていて、裏には、明治24年、友人らと唐岬の滝、白猪の滝を訪れた際に詠まれた“巡礼の夢を冷やすや松の露”という句が刻まれています。

暑い夏の総選挙が遠い昔のこの様に思えますが、新政権が誕生してまだ三か月余り。この間に、私達の国が今までいかに安易に、税収の倍近い分不相応の予算を是としてきたのかを知ることとなりました。いつまでたっても完成しないダム、完成しても貯水することが出来ないダム、治水にも利水にも役に立たないダム、地質学的に適していないダム、水質に問題のあるダム。利用者の殆どいない空港、道路。数分の短縮のため在来特急を廃止し巨額の予算を計上して計画される整備新幹線。

様々に名前を冠して名目上公務員削減の為に作られた独立行政法人。特殊法人などの外郭団体。そこは国からの多額の補助金、交付金を中抜きする天下りの温床ともされています。正規職員とは別に、実態さえ判らない嘱託という名の職員が謝金という把握できない報酬を受け取っているとさえ言われています。

複雑で分かりにくいところには何らかの意図的な悪が入り込む隙があるということなのでしょう。

政府は、相対的貧困率（1人当たりの可処分所得の中央値228万円の半分に満たない人の割合）は15.7%（約2000万人）、一人親世帯に限ると54.3%になると発表しました。日々の生活さえ儘ならない人たちの生活保護費に群がるハイエナのような“貧困ビジネス”まで横行しています。

まるでパンドラの箱が開いてしまったかのようです。

この現状を一刀両断に解決する方法を見つけることは至難の業でしょう。しかし、大切なことは私達の国をどの様な国にしたいのか、理念を持ち、その目標に向かって優先順位をはっきりさせた上で身の丈に合った予算を組むべきです。

師走に入り「世界一危険」とされる米軍海兵隊の基地、普天間飛行場移設を巡っての日米の軋みが連日のように報道されています。日米同盟を堅持しなければ日本の安全は保証されない、名護市辺野古沿岸を埋め立てて飛行場を建設するという2006年の日米合意を遵守すべきとする意見。今までの日米関係は対等ではなかった、対等の関係になるためにも日本は核も含めて軍備すべきとする意見。議論沸騰です。勿論、二国間で合意されたことを見直すのは困難を極めることは容易に想像ができます。しかし今まで沖縄に代表される

国内 85 か所の基地を抱える地元の方たちの負担を払拭することが何より大切なことです。そして辺野古の海はサンゴやジュゴンが生息する地球の宝です。2008 年 1 月には日米環境保護団体が辺野古沿岸に生息するジュゴンの保護を求めた、サンフランシスコジュゴン裁判でサンフランシスコ連邦地裁は、“米国防省がジュゴンへの影響などを評価検討していないのは米国文化財保護法（NHPA）に違反している”という判決を出しました。又、“日本の環境影響評価（アセスメント）は米国防総省にとって米国文化財保護法に基づく義務を果たすのに充分であるか”、との問いかけもされています。折しも来年は日米安全保障条約が締結されて 50 年の節目の年であると同時に国連の国際生物多様性年にあたり、2008 年バルセロナでの IUCN（国際自然保護連合）本会議で、“国際生物多様性年には特にジュゴン保護を推進するように”求めています。又、国際自然保護連合は日本政府に対し、“ジュゴン生息地での米国海兵隊基地移設に関する環境アセスメントにおいては科学者、NGO と相談して環境保全と野生生物保護を考慮し基地を造らないという「ゼロ・オプション」を含めること、米国海兵隊基地移設による有害な影響を回避または緩和するための行動計画を作成し公表すること”を求めています。あまり報道もされませんが何か進展はあったのでしょうか？日本のアセスメントは計画事業への“合わせメント”などと批判されることも少なくありません。来年は名古屋で第 10 回生物多様性締約国会議（COP10）が開催され、日本は議長国として 2010 年から 2 年間地球の環境保護、生物多様性保全を確実に進める役割の責を負うこととなります。

絶滅の危機に瀕しているのは動植物だけではなく、石鎚山麓の集落で昔から作られてきた石鎚黒茶という発酵茶。集落の住民たちが山を下りる中、標高 600m の場所にただ一軒残って石鎚黒茶を作り続けてきた曾我部さん御夫妻。最近“山が変わってしまった”ため“もう黒茶は作れない”と寂しそうに語っておられました。山に針葉樹が増えすぎたため黒茶を発酵させる森の力が壊されたのだといひます。

戦争は最大の環境破壊であることを思うと、基地をどこに移すかではなく、戦争を準備する為の地球上の総ての基地を、兵器を無くすための最大の努力をするべきだと考えます。子供じみた理想論かもしれませんが理想を持たなければ、あまりにも複雑に進歩してしまった現代、進むべき方向を見失ってしまいそうです。ノーベル平和賞の授賞式の演説でオバマ大統領は“平和の為の戦争も存在する”と述べていましたが、それはいつ時のことだとしか思えません。武力にしても財力にしても、力でねじ伏せられた人には恨みしか残りません。そして報復へのエネルギーに変わっていきます。悪循環です。戦争のたびに、人間を始め失われるありとあらゆる生物の生命、壊れる心、排出される温室効果ガス。

今日で最終日を迎えるデンマークのコペンハーゲンで開かれている、第 15 回国連気候変動枠組み条約締約国会議（COP15）も夫々の国の利害が衝突してなかなかすんなりと 21 世紀の世界秩序の合意には至らない様です。

嬉しいニュースもありました。今年 10 月広島地裁が、広島県と福山市が進める鞆の浦の

埋め立て、架橋計画を厳しく批判し、広島県前知事に埋め立て免許を交付しないよう命じる判決を言い渡しました。その後、前知事は控訴していましたが、11月の知事選で初当選した新知事は11月30日「橋を架けるとか架けないとかの前提を一度置いて、地域の為に何をするのがベストか早急に議論を進めたい」と計画を事実上、白紙に戻す意向を表明しました。控訴の取り下げは依然留保しているものの一歩前進です。

今年、私が感銘を受けた“日本国憲法 前文”を記して2009年最後の雑感を締めくくりたいと思います。

日本国憲法 前文

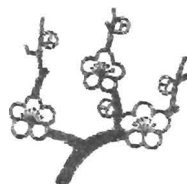
日本国民は、正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し、われらとわれらの子孫のために、諸国民との協和による成果と、わが国全土にわたって自由のもたらす恵沢を確保し、政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないやうにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。そもそも国政は国民の厳粛な信託によるものであって、その権威は国民に由来し、その権力は国民の代表者がこれを行使し、その福利は国民がこれを享受する。これは人類普遍の原理であり、この憲法は、かかる原理に基くものである。われらは、これに反する一切の憲法、法令及び詔勅を排除する。

日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであって、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めてゐる国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ。われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。

われらは、いづれの国家も、自国のことのみに専念して他国を無視してはならないのであって、政治 道徳の法則は普遍的なものであり、この法則に従ふことは、自国の主権を維持し、他国と対等関係に立たうとする各国の責務であると信ずる。

日本国民は、国家の名誉にかけ、全力をあげてこの崇高な理想と目的を達成することを誓ふ。

どうぞよいお年を!!



(K. O.)

福見山（倭飛山福見寺）

午前9時、山之内学校跡に集合し、友人4人で福見山（標高 1053m）に登った。登山口に福見山観音道（文久紀元・・・）の道標石がある。碎石場の横道を抜けて林道を登っていくと徐々に空気が澄んできて、汗ばんだ肌に風が心地よい。道端には冬いちごが一面に、それを口に入れ、甘酸っぱさに元気をもたせて登っていくと、センブリ（薬草）が林道の両端に生えている。一葉口に入れるとこれは苦い。良薬口に苦しだ。ふと木立の中を見ると紫式部がむらさきのかわいい実をつけていた。トイレ休憩をして、水分をおぎない、アメを口にして又登る。

中腹ほどに來ると、チェーンソウの音が聞こえる。間伐をしているようだ。森林組合の車が5台止めてあった。道理で林道が拡張されているわけだ。

しばらく登ると、明神ヶ森と福見山の分岐点に來た。私達は福見寺へ向けて歩き出す。海と山並の見える展望のよい所で昼食をとる。

リーダーがみそ汁を作ってくれた。リュックの中はみそ汁用の水・簡易ガスコンロ・食塩・ポカリスエット・バンソーコなど救急用品も入っていた。あつあつのみそ汁で各自作った弁当を広げて分けあって食べた。くるみパンのサンドイッチのおいしかったこと。

一息入れて出発。しばらく行くと私達を追い越していったジープがあり、落ち葉を袋に入れている人が居た。酒だる村へわき水を汲みに來ていた阿部さん夫妻だった。定年後土作りから始めて野菜作りをしている。ここは種々の雑木があるのでりっぱな白菜等ができる。持って行きますとの事。

少し話していたので、追いつこうと急いだが、皆は福見寺に着いていた。鐘をつき「平安後期の観音菩薩像」がまつられている奥の院に手を合わす。境内に2本の苗木が植えられていた。この木が大きくなったのを私達は見る事ができないだろうが、誰かが次世代のために植えたのだろう。境内に力石があった。以前気合を入れて引っくり返し、杉原のおばあちゃんがすごい力持だと言ったのを思い出し、さわってみるがビクともしない。無駄な抵抗はやめて、下山の途につく。林道わきの水場で口をすすぎ、つるりんどうを見つめる。

中腹でトイレ休憩し、間伐材にからまっている梅もどきを取り、ゆっくりゆっくり歩を運ぶ。10月は小田深山、11月は福見山と各々の山の小石を持ち帰って記念に並べている。手ごろなのを見つけたので一安心。それからはキョロキョロしないで歩を進めるが、疲れが出てきてはかどらない。

やっと午後4時前神子野登山口標識までたどり着く。一人がここでダウン。「車を持っ

てきて」と言うので、歩き始めると、リーダーが一足先におりて車を持ってきてくださった。「ありがたや、ありがたや」私達も乗せてもらって学校跡まで帰る。万歩計は 27000 歩を示していた。

「人間は森から出た動物である」と言われるが、ただただ歩く・・・この環境に身を置くと、ストレスなどは解消されてしまう。今日はハードだったが、私は山が好きだから、又登る。12月が高縄山の予定である。

平成 21 年 11 月 27 日 登山記

(S・M)



お知らせ

・総会のお知らせ

1月10日(日) 午前10時から 総会 林宅にて

2009年度会計報告 2010年度活動計画 など

総会后一品持ち寄りで新年会を行います。

東京からヒラさんも来られます。久しぶりに会える機会です。

多数の方の参加をお待ちしております。

・読者の声・投稿などお待ちしております。



くらしの学習会では、随時会員を募集しています。

活動会員 2000 円/年 購読会員 1000 円/年

振込先口座番号(郵便局) くらしの学習会 01610—5—21026

問い合わせ先 TEL/FAX 089—964—6956(林)

E-mail: kt-hayashi@nifty.com

編集後記

今回の会報は、生と死、老いなど重いテーマを含んだものになりました。私こと 10 月末膝をひねって半月板を損傷してしまいました。手術をしなければならぬのですが、仕事の都合もあり2週間の入院期間を確保することがすぐにはできず、3月の入院予約をしました。気持ちに体がついて行っていないということでしょう。もはや若くはないということを思い知らされた感じです。今後は、老いと仲良くして、いい生を全うしたいものです。

皆さま、よいお年をお迎えください。

(T・H)